

家族そろって明るい新年を

しめ飾り教室

明るい新年を迎えてもらうと、「しめ飾り教室」が12月14日、子どもからお年寄りまで約30人の参加を得て中央公民館で開かれました。

会場では、講師に迎えた町内の7人の名人から、参加者が稲藁いねわらを使って伝統の縄を編む技術を学んだほか、松やみかん、昆布などの飾り付けに挑戦していました。参加者は「手作りのしめ飾りができあがりうれしいです。家族みんなで明るい新年を迎えられそうです」と話していました。



講師の指導で飾り付けの方法を学ぶ参加者

ライトの点灯は早めに

交通事故防止を呼びかけ



運転者にシクラメンを配布する女性ドライバークラブ会員

町交通対策協議会では、冬の県民交通安全運動期間中の12月15日、女性ドライバークラブ会員や警察官など合わせて18人の協力を得て、上江黒地内の県道でシートベルト・チャイルドシート着用キャンペーンを行い、交通事故防止を呼びかけました。

また、夕暮れ時の事故防止を目的に町の特産品であるシクラメン200鉢を車両運転者に配布し、「ライトの花を咲かせよう」と、早目のライト点灯の啓発を行いました。

もちつきに興味津々

園児たちが伝統行事を体験

明和保育園では12月25日、子どもたちに年末の伝統行事を伝えることを目的に「もちつき」を行いました。

当日は、誕生会に合わせて開かれ12月に誕生日を迎えた園児と年長児たちが、全園児の元気な掛け声の中、もちつきを体験しました。園児たちは杵きねと臼うすでもちつきをする様子に興味津々。できたてのものは、きな粉をまぶしたり、雑煮雑煮などにして全員で味わいました。なお、明和幼稚園でも12月3日に行われました。



もちつきを楽しむ園児たち

一人暮らし高齢者ら激励

歳末慰問



斎藤町長から慰問品を受けるお年寄り

町では、ひとり暮らしや寝たきりのお年寄り、障害者の皆さんを対象に12月16日、歳末慰問を行いました。

斎藤町長をはじめ江原助役、浦野収入役、関係職員が4班に分かれて町内の263人の家庭を訪問し、慰問品や見舞金などを贈り激励の言葉をかけました。お年寄りは「町福祉関係者、ご近所のかたの温かいご配慮により、毎日無事に暮らさせていただいで本当に感謝しています」と話してくれました。